



名古屋東海ワイズメンズクラブ

会長主題 「ジャンプ！」

国際会長主題 「命の川を信じよう」	Jacob Kristensen (デンマーク)
アジア太平洋地域会長主題 「変化をもたらそう」	David Lua (シンガポール)
西日本区理事主題 「Let's do it now!」	吉田 裕和 (京都トウビー)
中部部長主題 「知らせよう! ワイズの奉仕活動を」	早川 政人 (名古屋グランパス)
名古屋東海クラブ標語 『限りなき熱情を奉仕に』	

今月の聖句

わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。そのとき、あなたたちがわたしを呼び、来てわたしに祈り求めるなら、わたしは聞く。わたしを尋ね求めるならば見だし、心を尽くしてわたしを求めるなら、わたしに会おうであろう、と主は言われる。

(エレミア書 29 章 11 節～13 節)

強調月間 I B C (International Brother Clubs) ・ D B C (Domestic Brother Clubs)

1 月例会等ご案内

明けまして
おめでとうございます。



◎ 1 月第 1 例会

日程：1 月 14 日 (木) 18 : 45～

中止します。

◎ 1 月第 2 例会

【新年初顔合わせです是非ご参集下さい】

日程：2021 年 1 月 21 日 (木) 19 : 00～

会場：名古屋 YMCA

◎ 2 月第 1 例会 (第 2 例会を兼ねます)

日程：2021 年 2 月 18 日 (木) 18 : 45～

会場：名古屋 YMCA

※ T O F で食事なし。

※ オークションと打ち合わせ

東海ワイズ五つの信条

- 一、自分を愛するように隣人を愛そう
- 二、青少年のために YMCA につくそう
- 三、世界的視野を持って国際親善を果たそう
- 四、義務を果たしてこそ 権利が生じることを悟ろう
- 五、会合には出席第一 社会には奉仕第一を旨としよう

【出席率】 12 月末—在籍者 20 名
(内広義会員 2 名)

出席者 11 名 (Make up 11 名)

出席率 61.1%

【特別ファンド】

12 月ファンド

合計

0 円

1,369,244 円



1976年スタート以来、44回目を迎えた名古屋YMCA『平和の使者クリスマスカードコンテスト』を今年度も、名古屋東海クラブは協賛することができました。

新型コロナウイルスの感染拡大が、いまだ収まりを見せない中、関係者の綿密な感染対策と努力により、名古屋の年末の風物詩の一つとして、凡そ800点の応募作品の募集から、審査会、表彰式、作品講評、優秀作品展示会に至る一連のプログラムが今年も無事に実現しました。

11月21日(土)の審査会では審査委員4名の先生方より、愛知県及び名古屋市教育委員会賞、朝日新聞社賞、サクラクレパス賞、名古屋YMCA賞、名古屋東海ワイズメンズクラブ賞の特賞16点が選考されました。



12月5日(土)南山YMCAで行われた表彰式では、中村隆総主事のご挨拶の後、高澤審査員から、「審査会に臨むたびに毎回心洗われる思いになる。コロナ禍で気持ちが塞がり勝ちな中でも、応募作品の質、レベルが高く維持されたことは素晴らしい。今後も楽しく描いてほしい。」と45名の参加者の前でお話があった。

次いで、YMCA賞他各賞の発表と表彰があり、名古屋東海ワイズメンズクラブ賞には後藤遼成さん(小3)と古池環那さん(年長)の二人の作品が選ばれ、太田全哉東海クラブ会長から賞状及び盾が手渡されました。引き続き審査委員の4名の先生

方から各賞の一人一人の作品を1点ずつスクリーンに映し出して、わかり易い丁寧な講評をいただきました。

また12月8日～14日までの期間、名古屋久屋大通のセントラルパーク地下・市民ギャラリーで特選作品110点及び海外ロスアンゼルスYMCAから送り届けられた作品と合わせて展示が行われ、地下道を行く人々へのクリスマスプレゼントとなり、楽しませてくれました。

なお、全体の中から5点のクリスマスポストカードが出来上がり、早速YMCA窓口で販売が始まっています。

たくさんの優秀作品を鑑賞させていただき、子どもたち一人一人が描く想像豊かな物語を垣間見た思いがしました。又、明るく、かわいい図柄で、見るものを楽しませてくれ、作者本人に一声かけたくなりました。また鑑賞者同士で、作品について語り合えたらとも思いました。

最後に、素晴らしいこの企画、もっともっと多勢の市民に見ていただけるような工夫を主催者をお願いしたいとも感じました。(長谷川和宏)



クリスマスコンサート

at 名古屋港ポートビル 2020 開催

例年 JR セントラルタワーズガーデンでサンタクロースに扮した 100 名以上の参加者によるクリスマスキャロルの合唱イベントがコロナ感染防止のため出来なくなり、その代わりとしてオルガン演奏を聴くという形でのクリスマスの集いが実現しました。



奏者は毎年伴奏をされている安井正規さんに依るもので、会場は名古屋港ポートビルの講堂。収容定員の 7 割ほどの 70 名を当日定員とし、座席の間隔を十分に配置し、机の面は念入りの消毒に努め、受付でも来場者全員の体温の測定と手の消毒に協力していただきました。



午後 2 時 30 分のオープニング演奏、吉川裕子実行委員長の開会アナウンス、中村総主事のメッセージ、来賓の紹介として、永く指揮者を務められた橋爪圭子さんと司会を担われた木村愛子さんにマイクが向けられました。

コンサートの曲目はチャイコフスキーの花のワルツ、安井正則さん作曲の戦国交響絵巻「信長が

翔ける」、クリスマスソングメドレー（赤鼻のトナカイ・サンタが街にやってくる・きよしこの夜・ジングルベル他）等、壮大な曲や楽しい曲ありであつという間に時間が過ぎました。

南山幼稚園児 2 名による花束贈呈と、対して演奏者からお礼の倍返しという言葉が述べられ、最後にこのコンサートが実現できた心からの喜びと、来年はキャロルが再び歌える願いとよき新年への期待を込めた実行委員長のことばでお開きとなりました。
(大島孝三郎)



第2例会報告

1. 1 月第 1 例会について再度協議し中止を確認。また第 2 例会は予定通り開催する事を再確認。
2. 2 月第 1 例会は年間計画通り、2 月 18 日に第 2 例会を兼ねて開催する。内容はオークション及び第 2 例会としての協議・打合せ。会場は名古屋 YMCA、TOF で食事なし。また、担当を鷺尾君と谷口担当主事とした。
3. 太田会長より次期会長が、山田英次君に決定したことが報告された。
4. 太田会長から、長年にわたってクラブへ切手を寄付し続けている八木武志君に感謝の寸志が贈られた。

【出席者】浅野、大島、太田、木村、柴田、橋爪、長谷川、松本、八木、鷺尾、谷口



SUZUKI REPORT (2)

映画のリアル —共感・響感—



これは、映画好きが多いと思われる(?) 東海クラブのメンならご存じの、オードリー・ヘップバーン(「ローマの休日」とヘンリー・フォンド)です。

ちょうど1年前の例会で「若者達の感じる生き辛さ」についてお話ししました。親密圏では「場の空気を読む」ことに気を使い、その反動で公共圏の人々に対しては、存在自体を否定するかのような若者の価値観の変化について、でした。

今、私は不登校経験者が多く通う大阪 YMCA の複数の高校で、週 15 時間ほどの授業を持っています。この2年ほど映画をしばしば教材に用いています。この2つの映画は、特に高校生から好評を博したものです。前者は外国語系統(英語)の時間に、後者は多文化共生系統の授業で「合意形成」をテーマにして。

映画は、2時間の枠組みの中で、物語が展開し、登場人物の心の変化が映し出されるものです。「今、目の前にいる仲間の気持ち」の付度に終始する高校生たちにとって、またはスマホのゲームのような瞬間的な刺激が連続する映像に慣れた彼らにとって、特に1960年代に作られた名作は、とても新鮮に感じられるようです。

授業では、2時間を一気に観ずに、あえて毎回20分程度を5~6回に分けて、じっくり鑑賞して

います。これも映画の持つ「文法」とフィットしています。また何よりも、「暗闇の中で、一つのスクリーンを皆で観る」という行為の中に、お互いの息遣い、心の動きがを感じ、「響き」あい、「リアルな感覚」を共有する時間が存在する気がしました。

なかなか例会に参加できずにいるメンバー(私のこと・笑)ですが、お会いした時には是非、「いまどきの高校生に観てほしい映画」を教えていただけたら幸いです。(鈴木一弘)

新年にひと言

「ブリテン編集の苦労」

浅野 猛雄

私はクラブに入会してから今迄3回ブリテンの編集をしてきました、1回目はノートに書かれた原稿をホッチキスで止めたのを印刷屋に出す適当なものでした。

2回目は東海クラブのメンバーの近田さんの所で印刷をしていました、前の担当者が毎月一日には必ず着く様発行していましたので、「前の人が出来たのに、貴方には出来んの」とメネットにはっぱを掛けられ、年末に本社で社長の挨拶を聞いた後、皆がボウリングに行ったのに私はその後印刷屋に走ったり、少しでも早く着く様に夜中に高蔵の集中郵便局に投函に行った事も有ります。

3回目は私の会社の近くの印刷屋で頼んだので原稿をワープロで打つのに1ページ8,000円掛かったので印刷費が高くなってしまいました、又、その時に表紙をカラーにしました、ドリームと書かれたのは、その時の会長標語がそして夢から取られたものです。

第2例会終了後からブリテン発行までが胃の痛くなるような毎日でした。皆さんもブリテン担当者から原稿の依頼があれば心良く引き受け締切日を守ります様お願いします。

「三島由紀夫没後50年」

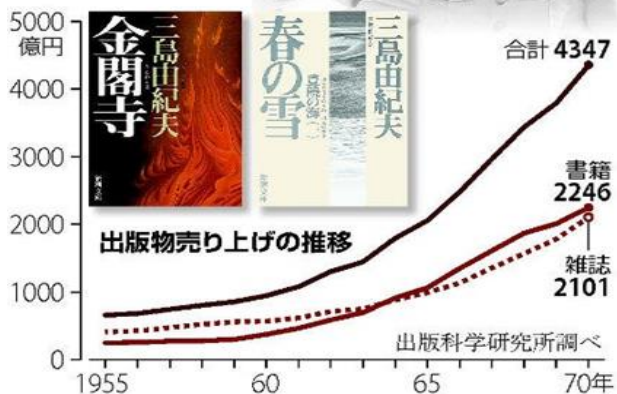
柴田洋治郎

以前のブリテンで私は時代小説を読むのが好きだと言ったことがある。肩の凝らない時代小説を毎週最低1冊は読んでいたが、最近時間的余裕もできてきたので、硬い小説にも挑戦してみようと思いついた。丁度、令和2年11月25日は三島由紀夫の没後50年ということで、書店には同氏の関連書籍が多く並べられ、マスコミでも関連の報道が多くなされた。

昭和45年の東京市ヶ谷陸上自衛隊駐屯地での三島氏の割腹自殺の様子はテレビでもリアルに放映され日本中を震撼させた。当時私は大学2年生で、激しい学生運動の最中でもあり、世の中は混沌としていると感じていた。

三島由紀夫の30～40代の出来事と出版界の動き（敬称略）

1955年(30歳)	三島、ボディービルを始める	
56年(31歳)	「週刊新潮」創刊（出版社系の週刊誌） 『金閣寺』	
58年(33歳)	週刊誌創刊相次ぐ	
59年(34歳)	『鏡子の家』	
60年(35歳)	カラーテレビ本放送開始 映画「からっ風野郎」に出演	
63年(38歳)	写真集『薔薇刑』裸体のモデルに	
64年(39歳)	「平凡パンチ」創刊、東京五輪	
65年(40歳)	『豊饒の海』第1巻『春の雪』連載開始	
66年(41歳)	全集ブーム	
68年(43歳)	川端康成ノーベル文学賞	
70年(45歳)	自決 自ら主宰する民間防衛組織「楯の会」の制服を着た三島	



三島氏の小説を最初に読んだのは今から3年前で、ノーベル賞候補にもなった大作家であり、東大を出て、一旦大蔵省に入省したのにすぐ退職し、エリート官僚の道を捨てて、舞台演出家、俳優やモデル、ボディビルもやるという文壇のスター的存在というのが当時の私の認識であった。三島氏は16歳で短編小説「花ざかりの森」を執筆し、周囲から天才現るとして評判となった。彼の作品は、青春小説である「潮騒」や他の一部作品を除いて難解なものが多く、有名な「金閣寺」や「宴の跡」等は実際の事件を題材にしているが、氏独特の三島ワールドを作り上げ、訴訟沙汰にもなっている。



2年前、私は自決当日の朝に出版社に出稿した作品である「豊饒の海」全4巻を書店で買い求めたが、古典的な表現や該博な知識が多すぎて腹落ちせず、一旦はギブアップした。その後再度挑戦し全4巻を一応読み切った。内容は難解な輪廻転生、唯識論、貴族社会のこと、同性愛等も語られているが、プロの作家や評論家によれば、本書に限らず氏の作品は美、死、エロスをテーマに据え、起承転結が明確な論理的で装飾的な美しい文体であるという。そこで私は評論集、解説書を並行して読み込んで、徐々に頭の中を整理していった。氏の作品からは日本の古典、歌舞伎、能楽、古今東西の文化、歴史、宗教にも精通していることが端々で読み取れ、凡人にはついてゆけない天才と言われる所以であろう。

三島氏は30歳代までは芸術至上主義で来ていたが、以後、戦後日本が経済成長に浮かれ、米国に主導された、日本文化を顧みない国となったことを憂えた。関連資料によれば、大学生に対し講演したり、様々な知識人と討論を行って、多くの

質問にも明確に答えて、幅広い見識に基づいた主張を繰り返してきた。

これを見ると割腹自殺や同性愛等が前面に出て歪んだ三島像が出来上がってきたとも思われる。三島氏が「天皇万歳」というのは、日本人が長年に亘り築き上げてきた美意識や日本文化の伝統を守れということを象徴的に叫んでいるのだと、私には思われる。45歳の天才を失ったことは、日本にとって大きな損失とも思えるが、本人にとっては濃密な時を過ごしたのかもしれない。

【図表等は紙面の都合で、編集者の責任で挿入しました】

「最近目立つ自分の失敗」

大島孝三郎

この2～3か月間に例会の家を出る時間を間違えたり、会場を取り違えたりの失敗を3回も起こしてしまった。一つ目、楽しみにしていたZoom説明会へ家を出る時間に遅れ、期せずして家でのオンライン出席となってしまった。二つ目、食事会の準備ができない例会日に地下鉄に乗ってから、習慣になっているラスース ANNの方に行ってしまったこと。三つ目は、正しく本館玄関まで入った後、ラスースだったかなとの疑念が生じ、2階の事務所で確認すればよかったのに、以前のこともあったので急いでタクシーに乗り込んでから、ケータイをかけ誤りから救われた。運転手にはお詫びしキャンセルした。

このように最近、理解力、記憶力、集中力が衰えてきたことを実感している。しかし毎日30分の散歩と週1回のジムでのトレーニングは続け、新たに12月からは「子供安全見守りボランティア」のタスキを掛け、毎朝15分間小学校の校門での挨拶の声掛けを始めた。認知症の進行防止を期待しながら。

「無理なくほどほどに」

長谷川和宏

2020年コロナで始まり、今日12月27日段階「コロナ変異種国内初感染」と。

2020年、私自身は、新型コロナからは辛うじて逃げ回りながらも、別の体調不良が続き、散々な1年でした。むち打ち症、下顎膿胞摘出、带状疱疹、気管支喘息、歯痛、腰痛、膝痛、毒虫、泌尿

器、インフル他、7ヶ所のクリニック・病院にお世話になる破目に。診察券をフル稼働させてしまった。その上ワイズも活動停止。もはや原因も結果も、体力や免疫力の低下が明らかでした。

今年2021年にはコロナ収束への道に近付けるのか。ワイズの新しいスタイルを模索しつつ、起動が急がれる。個人的には、四苦八苦との共存も覚悟し、好きな小幡緑地で、無理せず程々に、からだと心を動かすことからと考えています。

2021年が、皆さまにとっても穏やかな、希望の年となりますように。

「2021年の抱負」

鷲尾文夫

この一年コロナ禍でステイホームを余儀なくされ、目標であった多くの人に会うことが全くできませんでした。今年も昨年同様の日々が続くと思われまので、自宅で出来るやりたいことをあげてみました。高校時代映画研究部に入り夢中になった映画をネット、レンタルなどで鑑賞すること。日記代わりに昨年五月から始めた中日春秋の書き写しノートを継続すること。小学校時代五年間習っていたピアノに再挑戦すること。苦手なパソコンを習得すること。以上ですが、やはりワイズメンズクラブを楽しむこと。これが一番中心になりそうです。今年もよろしくお願いいたします。

「ブリテン！！」

松本 勝

10月からブリテンの2面以降も作成することになりました。現在は原稿も写真もメールで届き在宅で編集ができます。配信もメールになり、今は浅野さんが経験されたような苦労はありません。

制作は楽になってきていますが、1月号は掲載する行事が少なく、紙面を埋めることが出来るか心配になり、寄稿を呼びかけましたら、おかげ様で6面立ての「新年増頁号」になりました。寄稿して下さった皆様に改めて感謝いたします。

今年も新型コロナが落ち着くまで、全員の顔合わせが難しいかもしれません。せめてブリテンでお互いの消息や思いを分かち合うことができれば嬉しいと思います。今年もブリテン編集へのご協力を宜しく願います。